コミュニケーション機器体験事業のご紹介

県では、公益社団法人 福井県理学療法士会に委託して、「在宅難病患者コミュニケーション機器体験事業」を実施しています。（相談・利用無料）

進行性の神経難病の方でも、早くから機器に慣れていただいたり、症状の進行に合わせてスイッチを工夫したりすることで、コミュニケーションを長く維持することができます。

福井県難病支援センター内に、コミュニケーション機器を展示していますので、関心のある方は、是非ご覧ください。（お問い合わせは、福井県難病支援センター　TEL 0776-52-1135　まで）

▶借りるには？

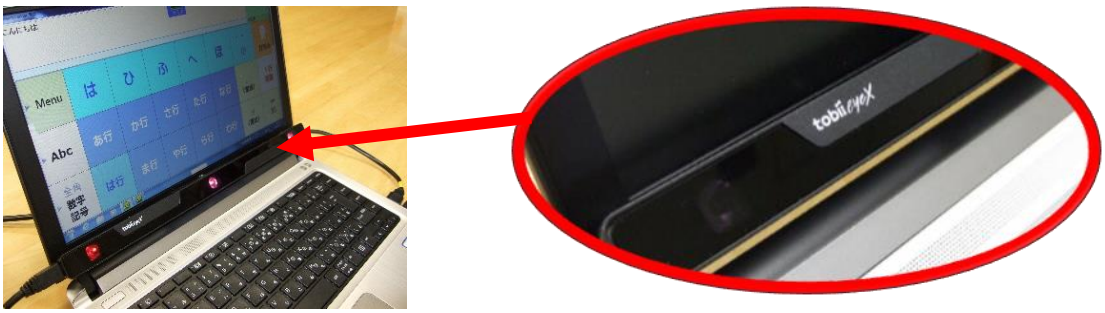
患者（家族） → 難病支援センター → 公益財団法人 福井県 理学療法士会 → 患者（家族）宅

① 申し込み　② 指導依頼　③ 操作指導

▶貸し出し期間は？

２～３週間程度（延長等に関しては要相談）

▶どんなコミュニケーション機器があるの？



●ハーティーラダー搭載パソコンと視線入力装置（tobii）

「ハーティーラダー」をインストールしたパソコンと視線入力装置 tobii を組み合わせて使うことで、視線を動かし、目の焦点を合わせるだけで、文字を入力することができます。

さらにソフトウェア「マイボイス」を利用して、予め自分の声を登録しておけば入力した文字を自分の声で読み上げることができます。

●伝の心

ノート型パソコン。スイッチ操作で簡単な会話から手紙・日記・電子メールなどの文書機能はもちろん、テレビ・ビデオ等のリモコン操作ができます。

●レッツチャット

簡単な操作で会話が楽しめる携帯用会話補助装置です。手軽に持ち運びができることと、複雑な操作が必要ないことが特徴です。

●トーキングエイド

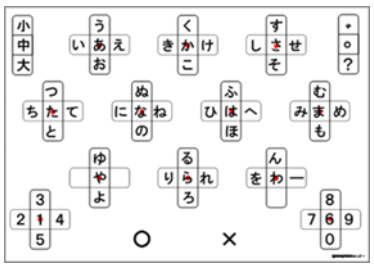
主に会話や筆談が困難な重度の障害者が意思を伝えるための携帯型意思伝達装置です。よく使うメッセージを登録して再生したり、盤上に入力したメッセージを表示することもできます。

●ピエゾ ニューマティックセンサースイッチ

歪みを感知するセンサーと、空圧変化を感知するセンサーの、２種類を使い分けられる入力装置。

●各種スイッチ

ジェリービーン、スペックスイッチ、
ポイントタッチスイッチ 等、
状態に応じたスイッチを各種揃えています。



●透明文字盤（フリック式など各種）

患者さんと読み手の間に透明文字盤をかざし、目の焦点を合わせることで、文字を読み取ることができます。